



宇都宮市道路見える化計画

平成20年3月

宇 都 宮 市

目 次

1. 策定にあたって	2
(1)策定の目的	
(2)みちづくりの「見える化」に向けた姿勢	
2. みちづくりの取組み	3
3. 道路の現状や課題を示すデータ	4
(1)現状データ	
(2)市民のニーズ	
4. 具体的な対策	9
(1)対策箇所選定の視点と流れ	
(2)代表的な対策箇所	
(3)その他の取組み	
5. 計画の推進に向けて	12
(1)道路行政マネジメントの実践	
(2)国や県との連携	

1. 策定にあたって

(1) 策定の目的

道路は、様々な都市活動を支え、地域の活力を高めるとともに、あらゆる市民生活に欠かすことのできない社会基盤の基本となる公共施設です。

これまで宇都宮市では、国や県との連携のもと、都市計画道路や幹線市道の整備をはじめとした道路ネットワークの構築や、環境や景観に配慮したみちづくりを進め、県都中核都市にふさわしい都市構造の構築に努めてきました。

しかし、一方では、依然として交通渋滞が発生し深刻な問題となっている地域や、交通事故が多発している箇所があるなど、市民生活の利便性向上や安全確保などの面において解決していない課題があり、その対応に努めていく必要があります。

さらに、少子高齢化や環境問題、財政的制約など、道路行政を取巻く環境は大きく変化しており、今後のみちづくりには、より一層の透明性の確保や、説明責任の向上が求められているところでもあります。

このような背景のもと、これらのニーズに的確に対応し、道路整備を計画的、効率的に推進するとともに、市民のみなさんにわかりやすいみちづくりを目指すため、「宇都宮市道路見える化計画」を策定します。

(2) みちづくりの「見える化」に向けた姿勢

今後のみちづくりには、整備の必要性や効果などについての「透明性」を高め、市民のみなさんの意見を聞きながら、成果の「見える」事業展開が求められています。

このため、本市では、みちづくりの「見える化」を進めるべく、次のように取り組んでいきます。

道路の課題やニーズをデータ等により把握します

課題解決を急ぐべきところを重点化し対策します

みちづくりの目的や成果をわかりやすく「見える化」します

2. みちづくりの取組み

宇都宮市では、「安全・快適で、機能的なまちづくり」を実現し、さまざまなまちやひとの活動を支える道路の機能や質を高めていくため、次のような方針によりみちづくりを重点化し、進めています。

「円滑な交通を支えるみちづくり」のために...

「都市・地域の活力を高める幹線市道網の整備」を進めています。

持続可能な集約型まちづくりのための道路ネットワーク、交通容量の拡大や交通結節点へのアクセス向上、地域間交通の円滑化、環境負荷を軽減するための道路整備

渋滞の解消・緩和

走行時間の短縮

公共交通の利便性

「誰もが安心して利用できる身近なみちづくり」のために...

「安心・安全な暮らしを支える道路整備」を進めています。

暮らしやすい住環境を支え、子どもから高齢者までだれもが安心して利用できる身近なみちの整備、自転車の走行環境改善、災害に強いまちに不可欠な生活道路の改善

交通事故の減少

バリアフリー

安全な通行空間

「まちの魅力を活かし、賑わいを創出するみちづくり」のために...

「都市の魅力を高める道路景観の整備」を進めています。

都心部の活性化に寄与する歩行者空間の創出とまちなかの拠点間のアクセス向上、県都にふさわしい魅力と風格ある景観整備

うるおい・回遊性

まちなみとの調和

「将来の費用負担を軽減するみちづくり」のために...

「トータルコストを抑制する道路整備・管理」を進めています。

将来の維持管理を見据えた道路整備によるコスト縮減、適切な時期のメンテナンスの実施による道路施設の長寿命化、将来のみちに関する総合的な経済負荷の軽減

計画的な維持管理

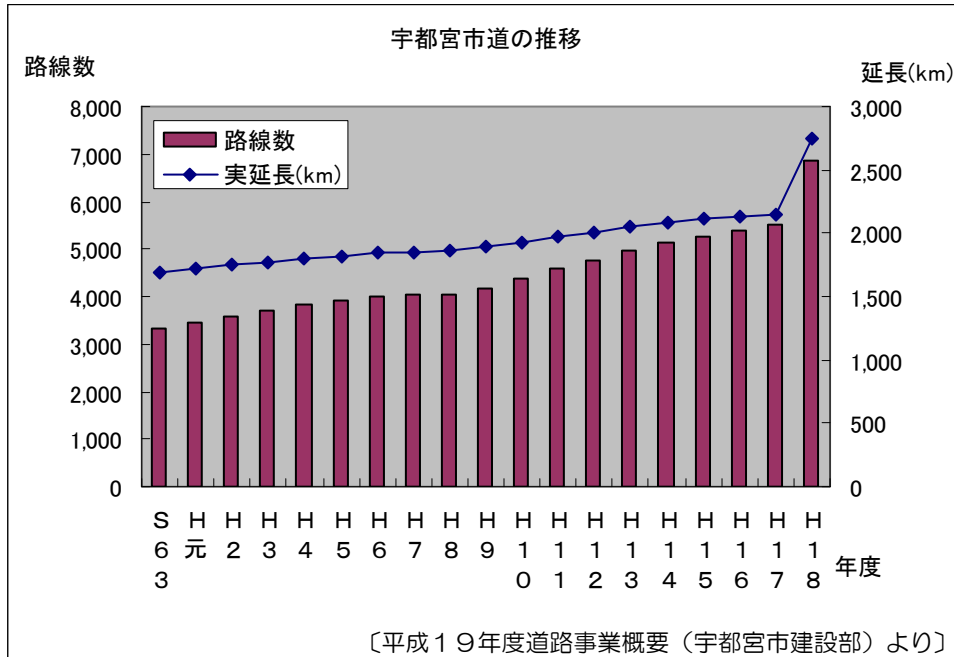
コスト縮減

3. 道路の現状や課題を示すデータ

(1) 現状データ

●市が管理する道路は増加の一途

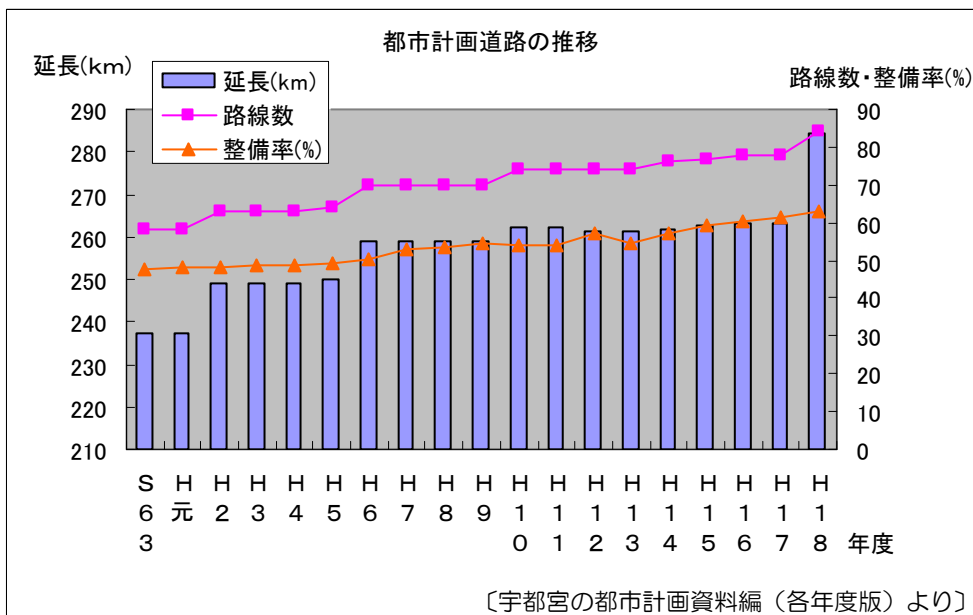
宇都宮市が管理する道路（市道）は、20年前に比べ、路線数は約2倍、延長では1.6倍となり、年々増加しています。



※H18の数値は、市町合併による増加分を含んでいます。

●都市計画道路の整備が不十分

都市の骨格を形成する都市計画道路の整備率は62.8%であり、約100kmの未整備区間があります。



●宇都宮市に渋滞が集中

県内の渋滞は宇都宮市に集中しており，日常生活への影響が大きく深刻な問題です。

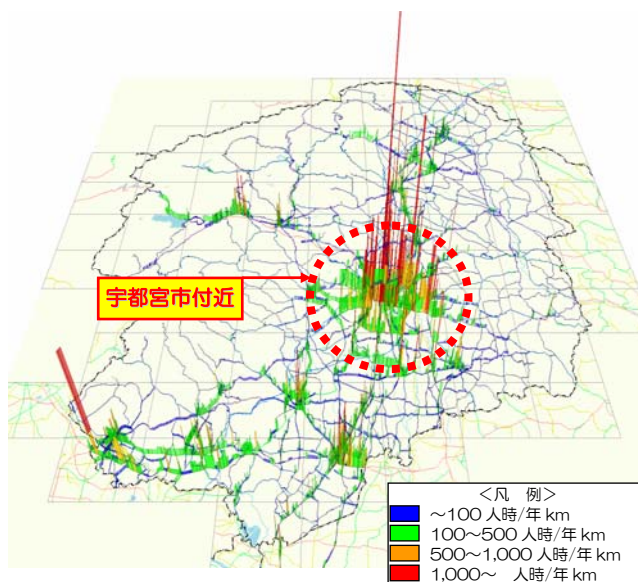
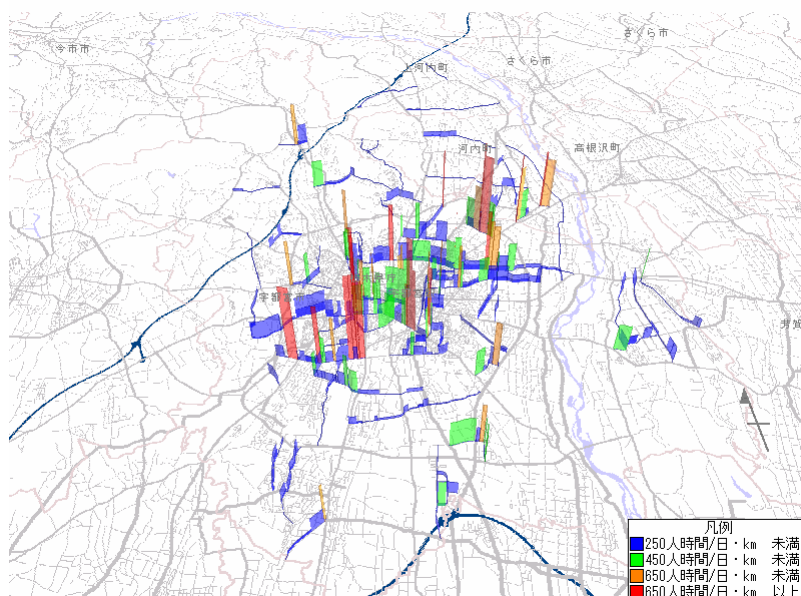


図 栃木県内の渋滞による時間の損失（H17年度；平日）
（国道，県道 国土交通省作成）

●広域交通のための国道・県道だけでなく，生活に身近な市道でも渋滞が発生

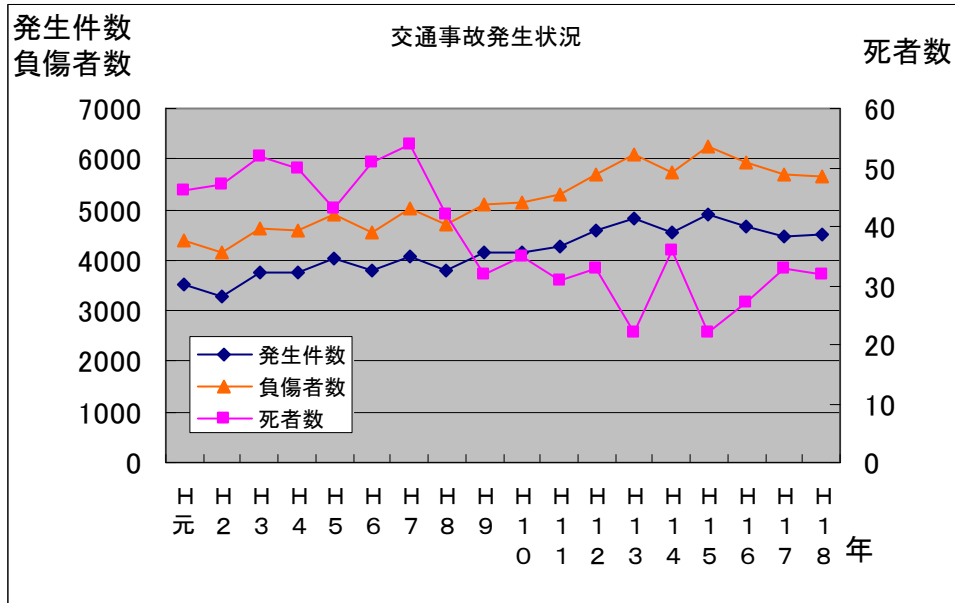
宇都宮市内の主要な市道においても，通勤通学時間帯において，渋滞が発生しています。



〔宇都宮市内の主要市道の渋滞状況調査 H19.6 平日7時～9時〕

●減らない交通事故件数

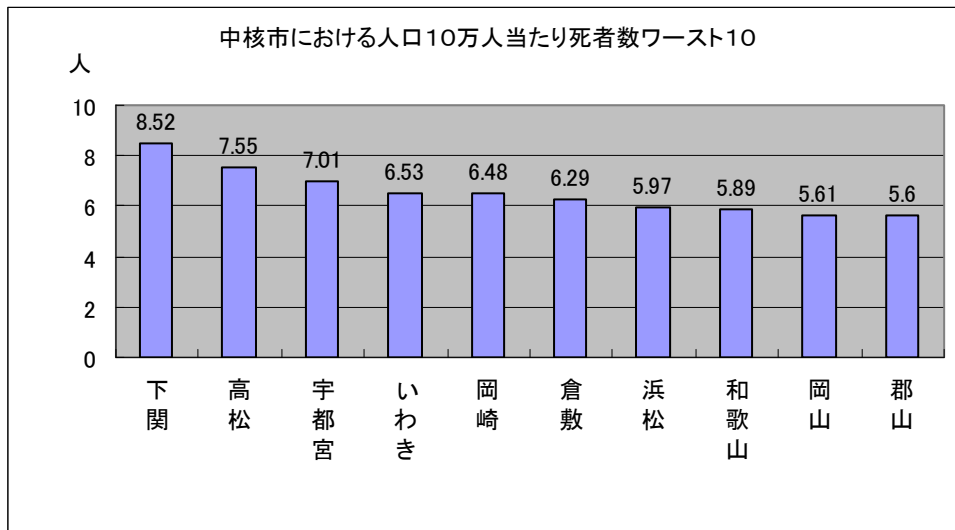
平成18年の交通事故は、前年に比べ、死者・負傷者数は減少しましたが、発生件数は増加しました。



〔平成18年版 宇都宮の交通事故より〕

●交通事故による死者数は中核市のなかでワースト3位

中核市（37市）の比較では、交通事故による死者数が非常に高くなっています。

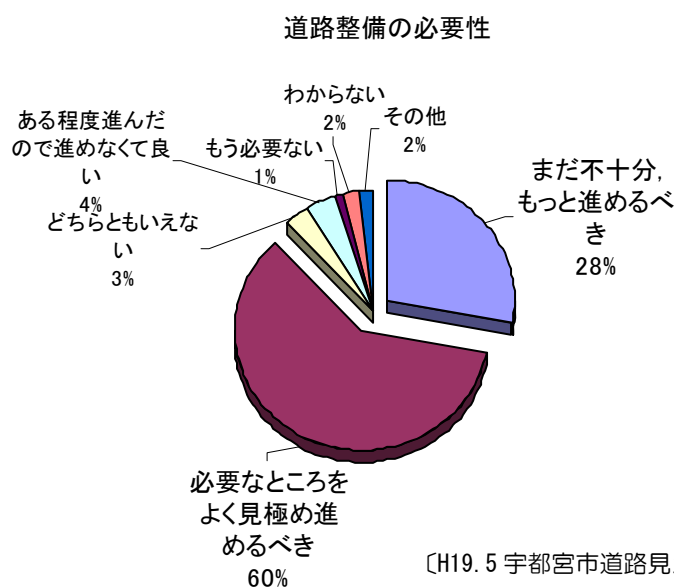


〔平成18年版 宇都宮の交通事故より〕

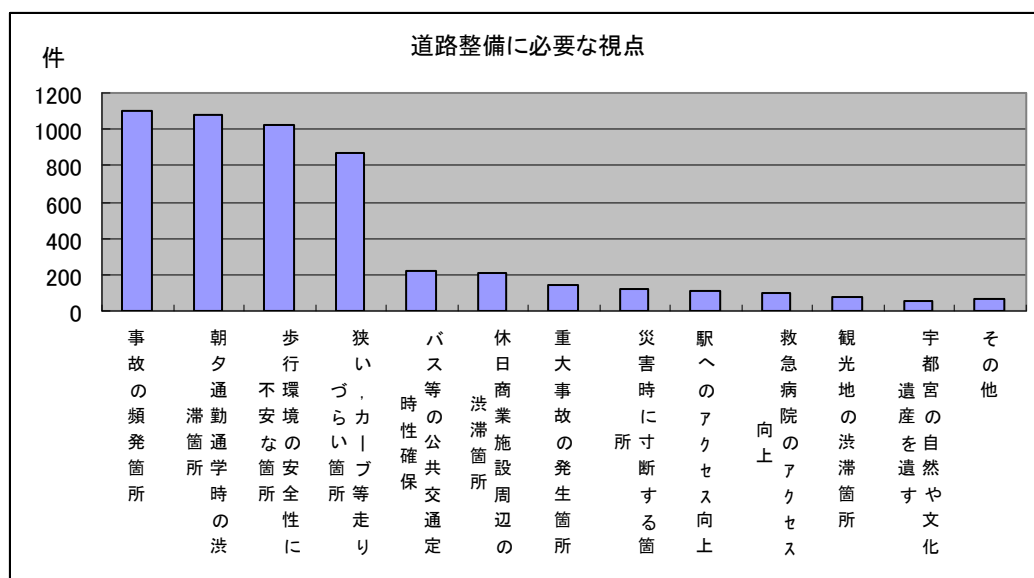
(2) 市民のニーズ —市民アンケートの結果—

●約9割の市民の方が道路整備の必要性を理解

約3割の方が「道路整備はまだ不十分、もっと進めるべき」、
6割の方が「必要なところをよく見極めて進めるべき」と回答



●道路整備の重要視点は「事故対策」、「渋滞対策」、「歩行環境整備」、「走りやすさ」



●**渋滞解消を求められている主な市道**

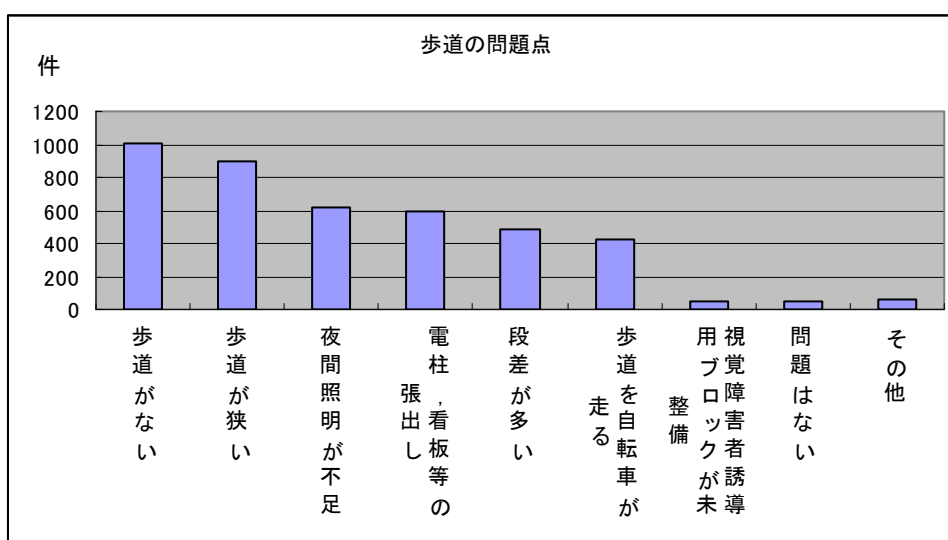
競輪場通り，清住町通り，陽南通り，インターパーク周辺，平成通りなど

●**危険箇所の改善を求められている主な市道**

清住町通り，久部街道，山崎街道，宮原球場通り，
市道 1635 号線(柳田街道) など

●**歩道の問題点は、「歩行者通行空間の容量不足」**

「歩道が無い」，「歩道が狭い」などの指摘が多い



[H19.5 宇都宮市道路見える化計画アンケート結果 n=4,207]



今後のみちづくりには、

「計画的・効率的な道路整備」が求められています。

また、

渋滞の解消・緩和や危険箇所の改善，歩きやすさ，走りやすさなどの

「移動性の向上や安全性の向上」が強く求められています。

4. 具体的な対策

(1) 対策箇所選定の視点と流れ

道路の課題や市民アンケートの結果を踏まえ、対策箇所選定の視点を導きます。

対策箇所選定の視点

●移動性向上

⇒渋滞対策, 走りやすさ など

●安全性向上

⇒交通事故対策, 歩道整備 など

これらの視点に関するデータを収集し、調査・解析します。

データ収集・調査

●渋滞状況調査

主要な市道の渋滞状況(旅行速度)を測定し、データ化。

●交通事故発生状況調査

過去5年分の交通事故の発生箇所を調査。

集中箇所や事故の特性等を把握。

データ解析・課題箇所抽出

既存データも活用しながら、調査結果等についての解析を行い、課題のある箇所を抽出。

代表的な対策箇所の詳細選定

視点ごとに抽出された箇所のうち、対策の必要性が高い箇所を「代表的な対策箇所」として選定。

(2) 代表的な対策箇所

● 移動性向上のための対策箇所

渋滞に関する市民アンケートの結果や渋滞調査のデータのほか、バスや鉄道などの公共交通との連携、国・県の渋滞対策との連携などの項目による総合的な評価に基づき、次のとおり対策箇所を選定します。

NO.	路線名	視点	想定される 主な対策内容
①	陽南通り	平日の渋滞 (平均の1.3倍)	立体交差 道路の拡幅
②	平成通り	平日の渋滞 (平均の1.0倍)	交差点整備
③	市道 544 号線(御幸ヶ原町)	平日の渋滞 (平均の1.0倍)	踏切拡幅 歩道の整備
④	宇都宮水戸線	平日の渋滞 (平均の0.8倍)	道路の新設
⑤	インターパーク地区周辺 (市道 5580 号線)	休日の渋滞	道路の新設
⑥	みずほの通り(市道 5340 号線)	平日の渋滞 主要渋滞 [※] 以外解消	道路の新設

● 安全性向上のための対策箇所

危険箇所に関する市民アンケートの結果や交通事故多発地点のデータのほか、歩道の状況、通学路の該当などの項目による総合的な評価に基づき、次のとおり対策箇所を選定します。

NO.	路線名	視点	想定される 主な対策内容
①	市道 544 号線	踏切対策	踏切拡幅 歩道の整備
②	宮原球場通り	自転車の安全通行	路面表示
③	市道 1635 号線(柳田街道)	危険箇所の解消	安全施設等
④	山崎街道	歩道の整備	拡幅、歩道新設
⑤	越戸通り	自転車の安全通行	路面表示
⑥	松原鶴田線	踏切対策、通学路	踏切拡幅 歩道の整備
⑦	宿郷地区 (市道 1605 号線ほか)	交通事故多発地点	注意喚起等
⑧	東宿郷地区 (市道 937,1631 号線ほか)	交通事故多発地点	注意喚起等

●対策箇所の整備手法について

選定した対策箇所は、詳細な現地調査を行い、課題に応じた最適な対策を展開していきます。

移動性向上のための対策例

⇒道路の拡幅，道路の新設，右折レーン，交通規制の見直し など

安全性向上のための対策例

⇒歩道整備，段差解消，交通規制の見直し，路面表示 など

(3)その他の取組み

●工事現場の「見える化」

工事現場の看板をわかりやすくします

「何のための工事を実施しているのか」，「いつまでやるのか」などの情報を，工事現場の看板に表示します。

また，交通規制を伴うような工事箇所については，広く道路利用者の皆さんにお知らせするよう努めます。

迅速な工事を目指します

道路で行う工事は，交通への影響が大きいため，なるべく期間を短縮できるように迅速な工事を目指します。また，工事時期が一定の時期に集中しないよう配慮します。

●維持管理体制の強化・充実

道路施設の長寿命化を図ります

既存の道路施設の有効活用を図るため，供用開始から長期間経過した橋りょうなどの道路施設の点検を継続的に実施していきます。また，舗装の更新など適切な修繕等を行いながら，施設の安全確認と併せ長寿命化を進めていきます。

道路パトロールを強化します

身近な道路の安全確保のため，パトロール体制を強化していきます。市民アンケートによりご指摘のあった危険箇所についても，継続的にパトロールを実施し，適切な管理を行います。

また、道路の危険箇所についてのより素早い修繕を行っていくため、市民の皆さんからの情報提供をいただけるようPRを行い、協力をお願いしていきます。

●交通安全の意識啓発

事故のない道路環境を実現するためには、道路の整備や改善を行うだけでなく、道路利用者それぞれのルール徹底やマナー向上が不可欠です。

このようなことから、ドライバーをはじめとする道路利用者に対する交通安全教室の開催や、交通事故多発地点等における注意を喚起するための取組みなどの啓発活動を実施していきます。

5. 計画の推進に向けて

(1)道路行政マネジメントの実践

●Plan(計画)－Do(実施)－Check(評価)－Action(反映)の実践を徹底し、「うつのみやのみちづくり」を市民のみなさんにさらに「見える化」します。

代表的な対策箇所については、さらに詳細な現地調査を実施した上、具体的な対策内容を検討し、対策を実施します。

対策実施後には、その効果などをデータにより確認し、市民のみなさんにお知らせしていきます。

さらに、課題や成果のデータ検証、対策の追加・見直しなど継続的な取組みを推進していくため、学識経験者や関係団体などにより構成する「(仮称)宇都宮市道路見える化計画推進懇談会」を設置し、進捗管理や評価などを実施します。また、概ね5年を目安に、計画の見直しを行います。

(2)国や県との連携

●国道、県道整備と一体となった計画の推進

今後実施していく対策の実効性や効果をより高め、道路利用者に満足の得られる道路ネットワークの整備を進めていくためには、国・県・市それぞれの道路管理者が一体となってみちづくりに取り組むことが重要です。

このため、対策箇所の共同での取り組みや、国道・県道の整備要望など、綿密な連携を図りながら、国・県とともに道路の「見える化計画」を進めていきます。